

## 高松宮妃喜久子殿下のお手による「和」



協会旗に「和」の文字が書かれていることはご存じかと思えます。この「和」の文字は、当時の本間順治会長の願い出により、高松宮妃喜久子殿下の御尊筆によるものであります。

金泥錦地の御料紙に殿下のお印であった「撫子」と皇室ゆかりの菊花を配し、殿下自ら「和」の文字を御尊筆になりました。

殿下は、有栖川流を継承され、書家としてもご高名で、現在は秋篠宮殿下が継承されると伺いました。

本年、高松宮記念賞が再開されるのにあたり、特に宮家から拝領したものです。この「和」の文字には、「お互いに相手を大切にし、協力し合う関係になること」との意味があり、この文字こそ、日本人がいにしえから「和を以て貴しとなす」としてきた精神を、優美に表しているとはいえないでしょうか。

殿下の「和」に籠められた有り難きお教えを再度噛み締めて、日々実践していきたいものです。

(黒滝哲哉)